

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に信頼される「義乃会」を目指す。</li> <li>・経営理念が作成されている。</li> <li>・職員会議などで管理者から説明があり作成されている。</li> <li>・地域に信頼されるような理念が作成されている。</li> </ul>	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念は職場に提示されており職員会議などにて話し合いサービスの提供に努めている。</li> </ul>	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来荘者や利用者にも目に触れるように、施設内に掲示している。</li> </ul>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の学生等ボランティアを受け入れている。</li> <li>・地域のお祭りに参加したり、法人の祭りに家族を招待している。</li> <li>・家族交流会や推進会議などで家族と意見交換を行っている。</li> </ul>	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議で検討し改善に努めている。</li> <li>・改善策など話し合いケアサービスの提供に取り組んでいる。</li> <li>・外部評価の結果は職員会議を利用し全員に周知徹底している。</li> </ul>		
6 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議の意義や役割を理解してもらい取り組んでいる。</li> <li>・家族や推進会議のメンバーには会議を利用して報告し意見交換している。</li> </ul>		
7 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所介護保険課には積極的に情報提供を行い、サービスの課題解決に向けて取り組んでいる。		
8 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修や内部研修が毎月実施されている。</li> <li>・必要に応じ利用者家族に事業について情報提供している。</li> </ul>		
9 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待を未然に防ぐように努めている。</li> <li>・毎月園内研修を実施、事例などを通じ全職員が虐待防止法に関する理解を深める取り組みを行っている。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている		
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・新しく担当する職員に詳細な引き継ぎを行っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・年間の研修計画を作成し実行している。 ・研修受講後は研修報告書を作成している。 ・研修後、職員会議で報告している。 ・研修を受講する人以外が勤務するように配慮されている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人との研修会や交流会の案内を提示している。	○	スタッフからの積極的な参加は一度もない。回避の補助なども考慮し参加しやすい条件を整備していきたい。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	健康診断の実施や各職員への結果通知を毎回行っている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に向けて挑戦するよう助言したり、学習しやすいよう勤務に配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の困りごと、不安なことが、一つでも解決するように、いつでも相談に応じることができるように努力している。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りなどにより、見極め対策を検討しサービスが柔軟に実行できるようにしている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	アセスメントにより、意向に沿ったサービスの提供を行うことにより安心して馴染めるように努めている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備を一緒にしたり、花の水やりや掃除など出来ることを楽しく出来るように助言、援助している。	○  今後も本人を理解するように努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	事情により面会に来れない家族には電話で会話する機会を作ったりうれしい表情や本人が残したメッセージなどを家族に還元している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族の関係や想いを把握している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出かけられるように支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者が孤立しないように配慮している。 ・スタッフが利用者の中に入り、交流がスムーズに行われるようにしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・家族との関係を継続するよう努めている。 ・サービス終了後も相談や支援に応じている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者の意向が把握できない時は、全職員が利用者の視点に立って把握するように努めている。 ・本人のことをよく知っている家族や関係者から情報収集を行っている。 ・毎月モニタリングを行い、本人の意向を聞き取りしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴などについては、家族などから情報収集を行っている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活を通じて、利用者のできることや分かる力を把握している。又、利用者の生活リズムを把握している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・定期的に必要な応じ介護計画を作成している。 ・介護計画は全職員の意見や気づきを基にして、十分話し合い作成されている。 ・利用者の意向も十分聞き取り、計画作成されている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画作成している	定期的、心身の状況変化に合わせ介護計画を作成されている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・一人ひとりの日々の暮らしの様子や身体状況について記録している。 ・介護計画の見直し時に活かせるように、記録には計画に沿って実践し結果がどうなったかなど記載している。	○	・赤線や波線を使用しすぐ分かるように記録している。 ・個々の毎日の介護経過を記録し、スタッフ間で情報を共有しながらアセスメントを行っている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携を実施し、利用者と家族の暮らしの継続を支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らせるように、地域住民や消防、近隣中学校や市職員などに働きかけている。	○	法人の行事「夏祭り」や推進会議など参加していただいている。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、他のケアマネジャーとの連携を図っています。又、高齢者アパートなど他事業所とも連携を図っています。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて社会福祉協議会や包括支援センターと協働している。	○	権利擁護や困難事例などの対応。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの受診状況を把握している。</li> <li>通院、受診は家族了解のもと行っており、受診結果は家族へも報告している。</li> </ul>	○	受診記録のファイルを作り、そのつど綴っている。
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者一人ひとり、状態に応じた指示、助言をしてくれる医師は確保し治療を受けている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間いつでも気軽に相談できる。	○	何か起きた時は、すぐ看護師に連絡がつくようになっている。
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院に向けた支援体制について整えられている。	○	入院時は頻回に面会に行き、病院関係者や家族から情報をもらうように配慮している。
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針を明確にしている。主治医、家族、スタッフなど関係者で話し合い、全員が情報を共有できるようにしている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医、家族、スタッフなど関係者で話し合い、全員が情報を共有し、心身の状態の変化に対応できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ダメージを最小限にするよう、家族の協力が得られるように働きかけている。	○	家族に連絡し都合の良い日を決め、外泊してもらい住み替えがスムーズに行くように援助している。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員は個人情報について理解している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者のその日の様子や表情をよく観察し、何を求めているか把握するように努めている。 ・家族から、利用者の希望や嗜好品についての聞き取りを行い支援している。		
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者の言動を急かせないよう援助している。 ・利用者のペースやその日の希望、心身状況に合わせた柔軟な支援を行っている。	○	午睡の援助や外出や散歩などの援助を行っている。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・衣類や衣服の乱れにはさりげなくサポートしている。 ・希望があれば外の美容院へ出かけられるように援助している。	○	希望時、美容院が来荘するなど支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・可能な限り、職員も同じ席につき食事をとっている。 ・メニューは何人かで持ち回りで決め、偏りがないように配慮している。又、定期的に見直している。	○	食事介助も援助している。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の状態に配慮しながら、嗜好品を暮らしの中に取り入れている。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・一人ひとりの排泄パターンを記録し把握している。 ・パターンに応じて事前に誘導するように援助している。	○	2時間ごとのトイレ誘導やおむつ交換など実施している。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴を拒否する利用者に対しては声掛けやタイミングなど工夫し気持ちよく入浴してもらえるように援助している。 ・利用者の習慣に配慮しながらも、のぼせや洗身介助など適切な支援をしている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・寝付けない利用者に対しては、付き添ったり飲み物を提供して対応している。 ・その日の出来事や疲れ具合に応じて柔軟に対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者一人ひとりにあった役割や楽しみ事を促す働きかけを行っている。 ・利用者の生活歴や希望など把握している。	○	食事の準備や拭き仕事など一緒に行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いができる利用者には、本人のお財布で実際にレジで支払いをしてもらっている。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の楽しみや気分転換につながるよう、日常的に外に出る機会を作っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・スタッフが会話から希望を引き出すよう働きかけている。 ・家族と相談しながら、出来るだけ本人の希望がかなえられるように援助している。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・年賀状や暑中見舞いなど出している。 ・手紙や宅配荷物などは、直接本人に手渡したり、本人が開封しやすい配慮を行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者と家族が落ち着いて過ごせるよう場所づくりに配慮している。 ・家族などの訪問時には、声掛けを行うなど過ごしやすい雰囲気作りを行っている。 ・面会時間は設定していない。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアに臨んでいる。 ・スタッフは身体拘束の内容やその弊害について理解している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に施錠はしていない。徘徊の強い人や帰宅願望が強く出ている人などでも、スタッフが見守り、離荘された場合でも付き添いを行っている。	○	・外出傾向を察知できるよう見守りを行っている。 ・日中、玄関は施錠していない。 ・居室など利用者の出入りする場所は施錠しない。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・スタッフは利用者を見守りやすい場所にて様子を見ている。 ・食卓やソファなど、見守りやすい配置にして事故が防げるように安全に配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・保管や管理方法に関する取り決めが利用者の状態に合わなくなった時は再検討が行われている。 ・刃物や薬などは、利用者の手の届かない所に保管されている。	○	ハサミなど使用する場合はスタッフの見守りにて使用されている。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的研修会を開催し、事故やヒヤリハット事例は全職員に周知されている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・全職員が応急手当や救急救命の研修を定期的を受講している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的日中、夜間に対応した避難訓練を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクを把握するとともに、家族に説明し利用者の状況変化に応じて見直しを行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の異変の兆候を見落とさないよう常に顔色や様子に注意を払うよう全職員に徹底されている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が利用者の薬の内容を把握できるように取り組み、服薬支援時は飲み忘れや誤薬がなように支援している。又、薬に変更があった時は全スタッフに周知している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便秘が不穏につながる事を理解している。</li> <li>・一日の食事量や排せつの状況を観察している。</li> <li>・下剤や浣腸を使用しているときは、ここに合わせた使用量や頻度となっており、出来るだけ薬に頼らない工夫をしている。</li> </ul>		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアを行い、うがいやブラッシングの声掛け介助を行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じ食事や水分摂取量を記録するなど把握するよう援助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症マニュアルを作成している。</li> <li>・感染症について定期的に園内研修を行い学習する機会を設けている。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床消毒、まな板消毒等定期的に実施している。</li> <li>・来荘者やスタッフが園内に入ったときは、手洗いやうがい等感染症予防に実施してもらう。又、感染症予防のためであることを毎回説明している。</li> </ul>
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材を無駄にせず、新鮮な食材を使用するように工夫している。</li> <li>・定期的に調理用具など消毒を行っている。</li> </ul>	○	冷蔵庫の清掃時などに在庫確認している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	事業所に入りやすいように、玄関の周りには、プランターに季節の花を植えている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品など、家庭的な雰囲気を保てるよう配慮している。又、季節を感じる事が出来るよう、四季の花々や行事の飾り付けなどを行っている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や中庭に椅子などを置き、利用者同士くつろげるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者が使用していた馴染みの物を持ってきても らえるように家族に働きかけている。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度湿度計をや加湿器を設置し、利用者や季節に 合わせた調整ができるように援助している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・廊下やトイレに手すりが設置されている。 ・利用者の身体状況の変化に応じ、環境改善して いる。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者一人ひとりの状況を把握するとともに、ト イレ、風呂、居室などに目印を設置し、混乱を防 止するように努めている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	敷地内に花や畑を作り収穫したり、中庭にテー ブルなどを置き楽しんだり活動する場所を確保して いる。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)